

令和４年度 第３回石狩市社会教育委員の会議 議事録（要約）

日 時 令和５年３月１７日（金） １４時００分～１５時３０分

場 所 石狩市民図書館 視聴覚ホール

出席者

[出席委員（１０名）]

木村 純・大橋修作・二上朋子・山田治己・近藤 宏・納谷眞智子・大内さつき

永田志津子・高橋典只・松本史子

[事務局（４名）]

社会教育課 課長 斉藤 晶・主査 栗谷幸介・主事 薩来翔希・主事 大澤 芽

[傍聴者（１名）]

（事務局）

定刻となりましたので、会議を始めさせていただきます。

初めに、委員長からご挨拶をいただきます。

（木村委員長）

皆さんこんにちは。最近、暖かくなりよかったなと思っていたら、今日の午前中大雪で、皆さんが来られるかと心配でした。寒い日も何日かあると思いますけれども、お体にお気をつけてお過ごしください。

では、本日の社会教育委員の会議を始めたいと思います。

会議次第に従って進めていきたいと思います。まずは令和４年度の社会教育事業実施報告について事務局よりご報告いただきます。

○報告１ 令和４年度社会教育事業実施報告

（資料１により事務局説明）

（木村委員長）

只今、事務局より報告がありましたが、ご質問ございますか。

（二上委員）

図書の返却の場所が多くなったこと、子供たちのスポーツの機会が多くなったことは喜ばしいことだと思います。ただ、交通手段がなく、会場に行くのに親の送迎しかない子供たちもいるため、ほかに良い方法があればもっと人も集まるのではないのでしょうか。

（木村委員長）

インターハイでソフトボールの会場になっていることに連動して会場周辺のバス路線の整備を

するなど、交通機関を充実させるような取り組みは市では行っていないのでしょうか。

（事務局）

今のところ、新規で交通機関が整備されるような話はありませんが、9月のスポーツ祭りなどでは臨時バスが出るなどの工夫をしているので、そういった形で対応することが現実的かもしれません。

（木村委員長）

石狩市は札幌市とは違い地下鉄などが無く、バス等で移動する必要があるため、移動手段、案内等工夫が必要ではないでしょうか。

（山田委員）

市内のスポーツにおいては厳しい現状であり、中学校の部活動も生徒の人数、教員の労働時間の問題があり非常に厳しい状況です。部活動に関してはもっと社会教育としてサポートすべきではないでしょうか。石狩市は「ひとり1スポーツ」となっている以上、もっとスポーツを盛んに行うような市であるべきであり、市がそれを支えていく必要があるのではないのでしょうか。

（木村委員長）

少子化や過疎化が進んでいる中、学校の枠を超えて友人などとともに活動できるスポーツは重要であり、やはり様々な問題が上がってくるため、それに対応する様々な部局が連携していくべきであると思います。

（事務局）

基本的には部活動については学校教育課のほうで対応しています。音楽的なことについては文化的なことです。部活動でも社会教育課が出て行って協議をして地域の方のご意見も伺いながら、北海道の策定する計画に沿って対応しています。

○議題（１） 令和５年度 主要な社会教育事業の概要（案）について

（資料２により事務局説明）

（木村委員長）

来年度の社会教育事業についての案でしたが、これについて何か質問等ございますか。

（山田委員）

（子どもの読書活動推進事業について）市町村の平均において、子供のゲームの時間が平均を大きく上回り、読書の時間は平均を下回っています。コロナの影響もあると思うが、子供が土日など、あまり図書館に来ていない現状です。恵庭市では様々なところに本を置き、図書館が出張

するような形をとっている。返却する場所を設置するだけではなく、児童館などの場所に図書を置いてはどうでしょうか。

（事務局）

実際にふれあいの社に設置しています。現在、管理しているアクトプロジェクトと図書館が運営ノウハウなどについて連携をとって進めている最中であります。

（木村委員長）

石狩市は司書も多く、読書に関して環境は整っている。あとは市民の意識に訴えかけることが必要になってくるのではないのでしょうか。

（山田委員）

北海道を代表する図書館は石狩市と恵庭市の2つであると思っているのですが、恵庭市では学校でのブックスタートや市民主導のまちかど図書館というものを行っており、図書館だけではなく、市をあげて子どもの読書に取り組んでいるようです。こういったことも参考にしながら進めていくことも考えてはどうでしょうか。ただ、恵庭市には公務員の司書がおらず、石狩市には公務員の司書が多くいる。こういった体制がきちんと整っているのだから、もっと様々な活動を進めていけるのではないだろうか。これにおいても社会教育委員の会議だけの話でなく、連携も必要ではないのでしょうか。

（事務局）

その点につきましては、社会教育課が図書館内に移動になったことを生かし、まずは図書館との連携事業を行うことを考えております。そしてこの事業をきっかけとして様々な事業を進めていきたいとも考えております。

（木村委員長）

現在、図書館のロビーに地域おこし協力隊のパネル展示を行っていますが、どちらが主催で行っているのでしょうか。

（事務局）

基本的には協力隊はいろいろなところで毎年パネル展示を行っており、その一環として図書館にも来ています。ただ、図書館のスペースを使うというのは行政や団体の事業等でしか使用できないものであり、厚田支所や浜益支所からパネル展の要請があって実施しています。

（木村委員長）

今までも社会教育委員として活動する中で協力隊の方々と交流する機会がありましたが、パネル展示を見ると実際このようなことを行っていたのだなあという気づきがあります。このことはとても重要で、広く言うと社会教育事業が行われているわけです。例えば浜益の教科書づくりな

ど、このような事業を行っていることを社会教育委員の皆さんにも分かるようにしていただけるといいのではないかと思います。

（二上委員）

ふるさとを学ぶ機会の充実、とありますが小学校の体験学習は年に一度程度ですが、砂丘の風資料館も利用者が入っているところをあまり見かけません。もっと開放するなど機会を増やしてはどうでしょうか。

また、教育プランの目標で「ふるさとへの愛着をもち、幅広い視野で新しい価値を創造し、活躍する人を育てる」とありますが、「愛着」とはあまりはっきりとしない言葉遣いではないでしょうか。

（事務局）

ふるさとに対しての愛を自身で持ってもらおうということであり、その仕向けをふるさと教育や学校教育などを通して様々な形で培っていくような展開をしていきたいと考えています。

（二上委員）

もっと活気をもって「もう一度行きたい」となるような施設づくりなど行っていってくれるといいと思います。あとは狭さが非常に気になります。

（木村委員長）

関係する協議会はあるのでしょうか。

（事務局）

文化財審議会のようなものはあります。施設棟についてどのようにするといったことが話し合われているのか把握しておりませんが、文化財課でも、施設で行うのか、出向いて行うのかなどといった様々なことが検討されているとは思いますが。

（木村委員長）

どんなところで取り組みがあるのか、その場所で行っているサークル活動の発表などあればもう少し盛り上がりも出てくると思います。博物館だったら博物館審議会のように、市民の声を反映させるような仕組みがあるわけですが、どんなことが話し合われているのかは私たちには情報がないので、それぞれの施設の課題はどんなことで、どんな話し合いが行われているのかといったことをもう少しわかりやすく、情報共有していくべきであると思います。

例えば、社会教育委員の細かい議事録のように、何を話しているのかわかるようなものがあれば、私たちも内容を把握して積極的に意見することができるのではないのでしょうか。

（山田委員）

小・中学生の学習指導要領の中から「ふるさと学習」が抜けてしまっています。市民カレッジ

では、学芸員を講師として迎え、石狩市の地形についてなどの講座を行っているのですが、こちらから働きかけないと動いてくれません。各小中学校にも地域の人材を使うよう働きかけていくことが必要だと思います。学芸員の方々は非常に素晴らしい資料も知識も持っています。ですが、働きかけないと表に出てこない。もっと働きかけが必要ではないでしょうか。

（事務局）

社会教育課で行っている出前講座の中にも文化財のメニューがいくつかございます。ただ、参加者を待っている状況でもあります。市民の方々の中には興味がある方もいらっしゃるので、講座の周知などで対応していければと考えています。

（納谷委員）

名前はわからないのですが、先ほどお話しした施設の小さな魚が春先にみられるのが、石狩特有のものらしいので、もっと推していったほうが良いのではないのでしょうか。それと、「まちかどピアノ」のようにどこかで読み聞かせをしたい人が自由にするのできるようなものをつくってみてはいかがでしょう。やってみたい方が多いようなので、いろいろな発表する場を設けることができるの良いのではないのでしょうか。昨年、公園で似たようなことを行った際、たくさんの子供たちが来てくれたので非常に良いと思います。

（木村委員長）

社会教育としては、まちの居場所づくりが必要であると思います。子供たちの居場所でもあり、読み聞かせをする場所としても使用できる場所になると思います。そういった場所を作っていかなければいけないという活動は全国的に出てきています。

○議題（２） 社会教育の振興に関する取り組みについて

（資料３により委員長説明）

（永田委員）

協働などに対して今一度確認すべく、関係各所にヒアリングなど行うべきだと思います。普段個々で活動を行っている団体などにどのように子供の教育について考えているか、何を問題と感じているかなどを把握することで皆さんが描く「いしかりの子ども像」に向けて、それぞれが担う役割がわかってくるのではないのでしょうか。ただ、これは事業に当たらないので、そのあたりはどうすべきでしょうか。

（木村委員長）

社会教育委員の仕事は社会教育計画をつくることで、その一環に当たることであると思います。現状がどうなっていて、社会教育をどのように進めていかなければならないかということを考え

るためにそういったことを行う必要があると思います。

コロナ前に高齢者の社会参加について皆で分担して調べるということを課題としましたが、なかなか動けず、結局公民館で活動するサークルの調査に切り替えたということがあったんですが、一人一人が動くことまで皆さんにお願いするということはそれなりに大変なことであると思います。ですが先ほど委員がおっしゃられたことについて皆でやってみようということであれば、それはすごく大変なことであると思います。

私としては、もう少し皆さんのご意見や普段考えていることや活動していることを改めて行うということではなく、「私だったらこのことについてこのように話してみたいことがある」など様々なジャンルについて分担していくことが必要だと思います。ただ、それを社会教育委員の中だけであるのではなく、直接かかわっている現場の方々と話をして会議を進めていくことが理想だと思っています。

私の計画としては4月の13.14に全道の社会教育委員長研修会があり、その時の基調講演を頼まれているのですが、社会教育委員がこういった形で協働を進めていくかなどの話をしようかと思っています。その後、皆さんに具体的な方法を提示して問題提起できたらと思っています。

（永田委員）

文科省が進めている子どもの教育についての地域協働ですが、学校側も地域も積極的に関わってもらえていないと思うのですが。

（木村委員長）

学校運営協議会にしても地域学校協働本部にしても住民の参加が不可欠なんですが、学校運営協議会であれば、地域住民にどれだけ参加してもらえるかということについては、すごく幅のある議論になっています。数年前であれば学校の先生にも社会教育委員の会議に出てもらえることはあり得なかったことです。今はそうでもなくなりましたが、変わらず難しいことであると感じます。しかし、地域、学校がお互いに対して理解を示すことが重要であると思います。少しずつ歩み寄っていくことが積み重なったところに次の一步が踏み出せるのではないかと思います。

行政においても、他部局の方に来ていただいて社会教育委員の会議を行うことが理想的だと思います。

（事務局）

地域学校協働活動やCSの関係で現状がいろいろと情報が入ってくるのですが、大きな学校と小さな学校では進み具合に差が生じていると思います。個人的には、なるべく先生方と地域の方が話せる機会を持たないと進まないと感じます。お互いの事情の中で広がっていくことがある、それをきっかけとして何かを行うことができるのではないのでしょうか。

コロナによる制限も令和5年度から少しずつ緩和されていく可能性も高いので、完全に新規で何かをするというのではなく、今までの地域とのつながりをもっと広げていけるようなやり方をとったほうがいいと思います。

学校運営での大変なところを地域側が知ることが大切だと思います。

(木村委員長)

基本的には、同じような問題意識を持っておられると思うのですが、現在は社会の分断が進んできています。それは学びと対話が足りていないからだと思います。まさにこれを解決するのが社会教育であると思います。互いを理解し、一緒に取り組めることがどのようなことか見つけ出すことが必要であると考えます。

(永田委員)

早く進めていかなければ、分断がもっと進んでしまうと思います。

私は町内会の役員をしているのですが、周辺住民から「回覧板には小学校のお便りばかり挟まっていて、必要ないから止めてくれ」という意見が上がりまして、検討しますとお答えしました。周辺に子供のいない家庭にとっては知る手段がそれくらいしかないわけです。それを止めてほしいという意見が立った以上はゆっくりと（社会教育を）進めていたら遅いのではないかと思います。

(木村委員長)

そのことについて率直に「なぜそうなのか」という話し合いが起こればいいのですが、「あいつはダメだ」と切り捨ててしまうと成り立たなくなってしまう。そんな時こそ対話が必要であると思います。

(山田委員)

私は校長を経験してきましたが、例えば「地域に開かれた教育課程を作成してくれ」と言われましても、実際に学校にとってみると非常に難しいわけであります。例えば学校運営協議会では職員の任用・人事まで携わってくることを学校運営協議会でできていいのかと思ったりもします。

なので社会教育委員では、学校教育のことでなく、子どものことについて話し合っていきたいです。社会教育として、社会教育行政としてやらなければダメだと思います。確かに石狩市ではいろいろな問題があり、整備していかなければならないと思いますが、今言ったように子どもの問題について取り上げるべきであると思います。例えば、不登校の問題などは、学校では対処しにくく、社会教育で対応することが望ましいのではないのでしょうか。札幌でも沢山の生徒が不登校となっています。対策を行ってはいますが、なかなかうまくいっていない。そういうことを含めて、子どものことについて話し合うべきではないのでしょうか。教育と名乗っているのだから、地域の子どものことについて把握し、話し合う必要があると思います。

(木村委員長)

今日結論を出すということではなく、今日の話を踏まえ次の会議をどう持つか、どういった意見交換が必要か、といったことを事務局と相談しながら提起していくことを考えておりますので、率直な意見をお聞かせいただければと思います。

(松本委員)

コーディネーターの立場にいて数年携わっているのですが、最初は校長先生や教員のメンバーが多かったのですが、最近は今まで関わってこなかった方も出てきており、そういった方々がアクティブに活動されているのを見て、本当はこのような形であるべきなのだろうと思いました。

また、先ほどおっしゃったように、小さい学校はスムーズに進むことが多いのですが、大きな学校は委員会を立ち上げることも難しいということもあります。ただ、コロナが収まってくるとするなら、いろんな動きがまた活発になってくると思っています。今までできなかったことが少しずつできるようになっていくと感じています。

(木村委員長)

一つは、社会教育委員の会議で具体的に「今日はこのことについて話そう」といったようにする方法もありますし、今おっしゃったように、コーディネーターなどの幅広い方が集まって交流、意見交換の場所を社会教育事業としてつくって、そこに父母の方や場合によっては子供たちを入れて話し合うことが我々の課題として検討すべきことと思います。

一つ一つ率直な意見をおっしゃっていただいて、それを具体的にしていくことが必要だと思います。

(事務局)

行政側としても、「子ども」に関してだと、本来、教育委員会が青少年の健全育成的なことを保健福祉部子ども政策が担当しており、ジュニアリーダー養成やこども会の運営に携わっています。先ほどお話しした子ども司書の件で図書館、社会教育、子ども政策で考えていることを話し合うということもございます。これをもっと気軽に相談できるような雰囲気をつくりながら話し合いを持っていくということが必要だと感じます。

また、CSに関しましては教育委員会総務企画課が担当しており、社会教育課は地域学校協働活動の担当で密接な関係があり、より連携していかなければならないと感じたしているので、徐々に取り組んでいければと思っています。

(木村委員長)

全国で取り組んでなかなか進んでいないことなので簡単なことではないと思うのですが、石狩市は子ども政策課があるということで、市全体で考えていこうという枠組みではあるわけなので、何かきっかけができれば進んでいくと思います。

今日皆さんにいろいろいただいた意見を踏まえまして、具体的にどうするのかをいくつか考えてまとめて、次回の会議に引き継いでいきたいと思っています。

(大橋副委員長)

学校運営協議会が進んでいく中で難しいと思っておりましたが、特にこの3年間コロナの影響で学校や社会自体が疎遠になっていって、コミュニケーションがどんどん失われていっていきのがネックになっていくと思います。

また、先ほどおっしゃられたように、私も浜益にいた頃は、家族何代もその学校に携わっているということもあり、地域と学校が話しやすい環境があると思います。ただ、花川地区ではそういったことがなく、一から関係性を築いていかなければならないといった難しい状況であると思います。ただ、コロナに関する状況も4月から変化していくと思うので、これをきっかけにいい実践の様子を我々市民が知らなければならないと思います。そして木村委員長が出してくださったこういった場を設けていただければ、我々もCSについて学べて、意見しやすいのではないかと思います。

（木村委員長）

まだ私の問題提起が具体的でないので、みなさんを悩ませてしまっているかもしれませんが、基本的には子どもの問題については、社会教育委員の会議なので非常に大切であると思いますし、行政が連携して子どもの政策事業を進めていくのを後押しするような社会教育委員の会議でありたいということについても、皆さんが共通して考えていただいているとすると、CSなどの協働活動が積み重ねられている中で、新しい知恵が生まれているということについて議論するということが非常に大事なことで皆さんが考えておられることもわかりました。そのことを踏まえながら、社会教育委員の会議を重視させていきたいと考えています。

私としては楽しい会議の場になるように会議の中で新たな発見、気づきがあるような会議にしていきたいと思って準備していますので、今後も皆さん積極的に自由な意見を述べていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

今回は私が宿題をいただきまして、次回の会議ではいくつか柱を立てながら具体的に社会教育委員として取り組むことについて提案をしていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

準備された議題については以上なのですが、その他事務局から何かありますか。

（事務局）

今年度の第1回の社会教育委員の会議にて決定した芸術文化振興奨励補助金の交付先である「小檜山文学を読む会」において、400ページ以上の本が出来上がったということをご報告させていただいたんですが、その際にお伝えしていた図書館での特別展示が、昨日から4月2日まで開催されており、補助金を使ってできた本や小檜山さんの本などが展示されています。そのように市民の方々の目に触れるかたちで展示されていますということについてご報告させていただきたいと思います。

（木村委員長）

社会教育委員の会議で提案されたことが生かされて非常に頑張ってくださいだったということでした。ありがとうございました。

それでは、本日も皆さんからご意見いただきありがとうございました。以上を持ちまして、令和4年度第3回石狩市社会教育委員の会議を終わります。